

《組合員の皆様へお知らせ》

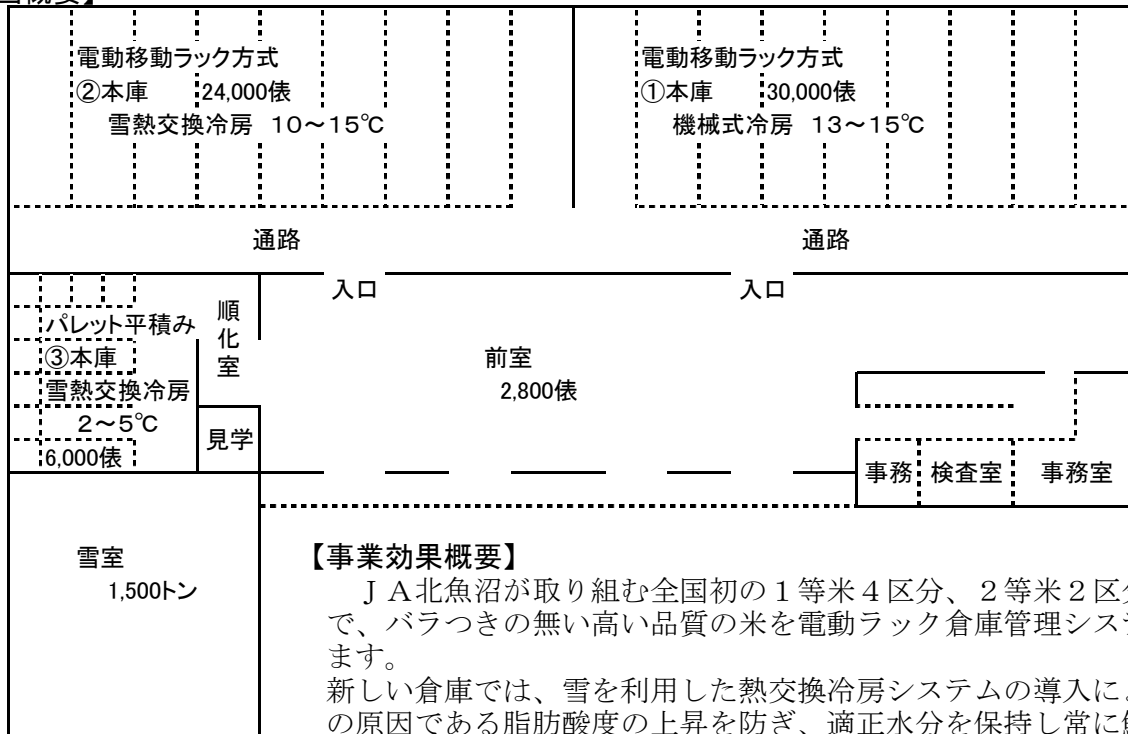
JA北魚沼の新しい倉庫ってどんな倉庫になるの？

・第12回通常総代会(平成23. 4. 24)で提案された低温農業倉庫の経過について

1. 建設場所は？ ⇒ 魚沼市板木ほか(中原・原虫野・干溝) 地内
2. 敷地面積は？ ⇒ 面積約 10,000㎡
3. 低温倉庫の概要は？
 - (1) 収容能力は… 6万俵規模(本庫3室) + (前室)
 - (2) 倉庫形式などは…

保管方法…	電動移動ラック方式	本庫①=機械式冷房	3.0万俵	(通年13~15℃)
	電動移動ラック方式	本庫②=雪熱交換冷房	2.4万俵	(通年10~15℃)
	パレット平積方式	本庫③=雪熱交換冷房	0.6万俵	(通年5℃)
 - (3) 倉庫の大きさは… 本庫・前室 最長 95m × 最短 55m
雪室 最長 20m × 最短 15m
4. 補助金計画は？
 - (1) 国事業 ⇒ 雪熱交換冷房 ・再生可能エネルギー熱利用加速化支援対策事業1/2(申請見込)
 - (2) 県事業 ⇒ 区分ラック保管 ・新潟米付加価値向上施設整備促進事業1/3(申請見込)
 - (3) その他 ⇒ JA北魚沼の自己資金

【平面図概要】



【事業効果概要】

JA北魚沼が取り組む全国初の1等米4区分、2等米2区分の区分集荷で、バラつきの無い高い品質の米を電動ラック倉庫管理システムで管理します。

新しい倉庫では、雪を利用した熱交換冷房システムの導入により品質低下の原因である脂肪酸度の上昇を防ぎ、適正水分を保持し常に鮮度の良い米の提供ができます。また、節電効果と環境にやさしいことからカーボンオフセットの考え方も適用できます。

産地精米と一体化し、取引先、販売先へのプレゼンの拡大につとめ、安全安心の信頼性と「選ばれる北魚沼米」の商品化ラインが増えることで、お客様のニーズにお応えし固定客、新規取引の確保につながられます。

5. 雪氷熱利用倉庫の機能

(1) 冷房・送風の仕組み

- ① 雪室倉庫に雪(新設倉庫1,500ト)を3月に貯蔵し雪の下から、冷気を吸入して送る。
- ② 雪室からの冷気を保管倉庫の下から挿入。上から温まった空気を排出し雪室へ送る。

(2) 雪冷房の効果

- ① 温度と湿度のコントロールが容易となり、保管中の品質低下を防ぎ古米臭を除去できる。
- ② 脂肪酸度の上昇を防ぎ、米の適正水分を保持することで常に鮮度の良い米を供給できる。
- ③ 省エネルギー効果や環境保全効果でCO2を抑制できる。

☆ 今後、いろんな情報や動きをお知らせします。